

OUI Inc.

NEWSLETTER

2025年1月20日 / Vol 32

ジンバブエで Smart Eye Camera 贈与式に参加



2024年12月9日から15日、OUI Inc.のCOO中山がジンバブエを訪問しました。ジンバブエは人口約1,670万人の国ですが、眼科医は27名、視能訓練士は65名と、眼科医療を支える人材や機材が不足しています。この課題に対応するため、日本の草の根・人間の安全保障無償資金協力プロジェクトの一環として、ルパネ郡のSt. Luke's HospitalにSmart Eye Camera (SEC) 6台が供与されました。

12月12日、ジンバブエ第二の都市Bulawayoから車で3時間の場所にあるSt. Luke's Hospitalで贈与式が行われました。式典にはジンバブエの保健大臣をはじめ、政府関係者や地域の医療従事者が多数出席しました。医師出身である保健大臣はSECやスリットランプに強い関心を示し、スピーチではSECが地域医療にもたらす可能性について触れました。ジンバブエの新聞メディア“The Chronicle”でも、引渡式の様子が記事として紹介されました。

中山は式典でSECのデモンストレーションを行い、OUI Inc.が目指す地域医療の課題解決への取り組みを紹介しました。式典後には眼科専門看護師 (Ophthalmic Nurse) を対象としたトレーニングセッションが開かれ、看護師たちはSECのシンプルな操作に驚きながらも、すぐに使いこなすことができました。

St. Luke's Hospitalは国内でも比較的整備された施設ですが、眼科医は常駐しておらず、眼科専門看護師が地域の医療を支えています。今回供与されたSECは、こうした看護師が診断や治療を補助するのに重要です。

今回のプロジェクトを通じて、ジンバブエの眼科医療の現状と課題を改めて実感するとともに、現地の医療従事者との連携を深めることができました。OUI Inc.は今後もジンバブエをはじめ、世界各地で医療技術を通じた支援を続けてまいります。

SEC
Smart Eye Camera

今回関わった組織

- St. Luke's Hospital





OUI Inc.では協働して実証を進めて下さるパートナーを募集中です!

OUI Inc.は、Smart Eye Cameraを使って、眼科医療へのアクセスが難しい、途上国の農村や医療過疎地域などの患者さんに眼科の診断を届け、現地の眼科医・医療機関と連携して治療までつなげるモデルを共創することで、2025年までに世界の失明を半分にすることをビジョンに掲げています。

これまでアジア・アフリカ・南米を始め、世界20か国以上でパイロット実証を進めています。日本では医療機器登録済みで、眼科クリニックや、離島や地方の医療過疎地域の診療所、訪問診療クリニック等での導入が進んでいます。

より多くの患者さんに眼科医療を届けるために、日本でも世界でも、各地の医療現場で活躍されている先生方・医療従事者の方々と連携して、Smart Eye Cameraを使った眼科の遠隔診断モデルの実証を進めていきたいと思っています。

ご興味のある方は、是非ご連絡いただけますと幸いです!

担当窓口:

Department of Global Business, OUI Inc.

中山 慎太郎: p.shintaro@ouiinc.jp

石丸 莉奈: ri.univ8@gmail.com

OUI Inc.ウェブサイト: www.ouiinc.jp

OUI Inc. Medium (最新の活動状況はこちらから):

<https://ouiinc.medium.com/>

公式Instagramも
始めております!



OUIINC.OFFICIAL

